

# 大久保長安どんな人？

## 八王子のまちづくりと伝承地



### 大久保石見守長安公について

(1545～1613)

天正18年(1590)に北条氏照支配の八王子城が落城し、八王子は徳川家康の治めるところとなった。

長安は徳川家康の命を受けて、江戸城を守る重要拠点である八王子に陣屋を築き、代官頭として十八代官を従え、領民の安全と八王子他のまちづくりに情熱をもって取り組み現在の町機能を築いた。

八王子を起点として石見・佐渡・伊豆の金山奉行を始め全国的に活躍し、徳川になくってはならない人になった。

徳川幕府の家臣として加判・年寄衆(老中)・所務奉行(勘定奉行)・一里塚奉行・関東代官頭・その他代官・奉行を努めた。しかし死んでから、政変に巻き込まれ、死後罪人の汚名を着せられておわった。

平成25年9月7日

大久保長安の会  
福島 忠治

## 1. 戦国時代までの八王子

時代	内容
①平安時代 ～鎌倉時代	◇ 900年ごろ、武蔵野国は、馬により発展した。 武蔵四牧。
	◇ 治安が乱れ、土着した国司や地元の豪族の中には、領地を守るため自ら武装する者が現われ、武士団が誕生。 ◇ 小野牧の別当小野氏の横山党、日野市東光寺を本拠地とする日秦(ひまつり)氏の西党など武蔵七党が活躍。
	◇ 鎌倉府の管領上杉氏の武蔵守護代大石氏活躍。 ◇ 高月城・根小屋城・滝山城などを築城。
③戦国時代	◇ 八王子城主北条氏照は、小田原に本拠地をおく三代北条氏康の三男で軍師・外交などで関東一円で活躍。 ◇ 滝山城の改修、八王子城など築城。

## 2. 八王子の領主が北条氏照から徳川家康に

### ① 北条氏照の八王子城没落

◇ 天正18年(1590)6月23日

豊臣秀吉の家臣前田利家・上杉景勝が八王子城を攻撃、落城。

### ② 徳川家康関東移封

◇ 天正18年(1590)7月13日徳川家の関東移封発令。

◇ 天正18年(1590)8月1日八卦の吉日に徳川家の勢力が江戸に移住。

◇ 徳川家康は、大久保長安に代官頭として武州八王子に代官陣屋を置くよう指示。

## 3. 大久保長安の前歴

### ① 長安の父親は猿楽師

◇ 長安は、大藏流猿楽師の子として大和(奈良市) ?で誕生。

◇ 祖父の時代までは大和・奈良の春日神社に奉仕する金春流(こんぱるりゅう)。父が大藏流として一派を起す。

◇ 金春流の宗家は秦氏(はた)氏で、長安の先祖は秦氏。

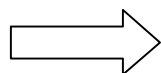
◇ 古代中国の秦始皇帝の子孫であり、四世紀始めの頃百済からの渡来人か？

百済は、高い文明の国で秦一族は朝廷に仕える技術集団。

例えば、奈良大仏建立の際、銅の鑄込み。

## ② 長安は甲斐へ

- ◇ 長安は、父親と兄と共に大和から甲斐の国に入る、武田信玄に父は猿樂衆、兄と長安は猿樂衆見習いとして仕える。
- ◇ 長安は、戦国の国々を旅して荒れ果てた田畑を見てきたので甲斐の国に入国して興味を持ったのは、治水対策が進んでいて領民の生活が確保されていること。



長安は、城主武田信玄が戦いに強いだけでなく、領民を大切に考える考え方に感銘を受けた。

- ◇ 長安は、猿樂衆見習をしながら、14才の頃から治水事業に取り憑かれ、猿樂の練習後、治水工事現場、設計などに興味を持ち猿樂の練習後、御勅川(みだいがわ)と釜無川の治水工事に関心を持ち、毎日の見学し探索。
- ◇ 長安は、蔵前衆組頭田辺太郎左衛門に師事し、蔵前衆に採用され治水対策のノウハウを習得。

## ③ 鉦山技術など

- ◇ 蔵前衆は黒川金山にも携わり、蔵前衆組頭田辺太郎左衛門に師事習得。
- ◇ 戦いの時、蔵前衆の仕事は前戦で戦うのではなく後方で兵站などの補給に活躍。

## ④ 武田家臣から家康家臣へ

- ◇ 天正10年(1582)武田氏滅亡。徳川家康は元武田の家臣を採用。最初は武士、続いて地方巧者(じかたこうしゃ)を募集。
- ◇ 地方巧者の応募は多数あったが長安は出頭せず、応募した地方巧者の話だと、甲州第一の地方巧者は長安であると言われた。数日後長安が出頭、対応したのは大久保忠隣。出頭が遅れたのは武田家直系の子を預かっていたから。大久保忠隣の仲立ちで家康の家臣に、そして忠隣が寄親に。

※大久保忠隣(1553～1628 おおくぼ ただちか)戦国時代から江戸時代初期にかけての武将・譜代大名。相模國小田原藩の二代藩主。父 忠世とともに酒匂川の治水と用水路開発をして、足柄平野を大水田地帯に変えた。二代將軍秀忠の後ろ盾として、大御所政治を敷く家康重臣である本多正信・正純親子と対立し、不遇の最期を迎える。

## 4. 大久保長安は、まちづくりの基本構想を検討

### ① 事前に視察を実施し基本案作成

- ◇ 文字通り死の町と化した城下町と、山城である八王子城の廃止を決定。東方の平地に陣屋を中心としたまちづくりを決定、家康の承認を取る。

### ② 八王子陣屋(平城)が必要か

- ◇ 八王子は関東出入り口であり、徳川家本拠地の西の守り重要地点。
- ◇ 甲州・相州の二国に接しており、今川・武田・北条が戦いに敗れて治安が

非常に悪い。

◇ 領民が繁栄するには流通を良くするための道路の整備。

### ③ 新しいまちづくりの構想を練った富士森

◇ あたらしいまちがよく見え構想を練るには最高の場所である。

長安はその場所に浅間神社・富士塚を築いた。

## 5. 新八王子のまちづくり

### ① 幹線道路とまちづくり

◇ 古甲州街道は南側を迂回していた。

◇ 長安はまちの中央を「山当て法」により直線で設定。

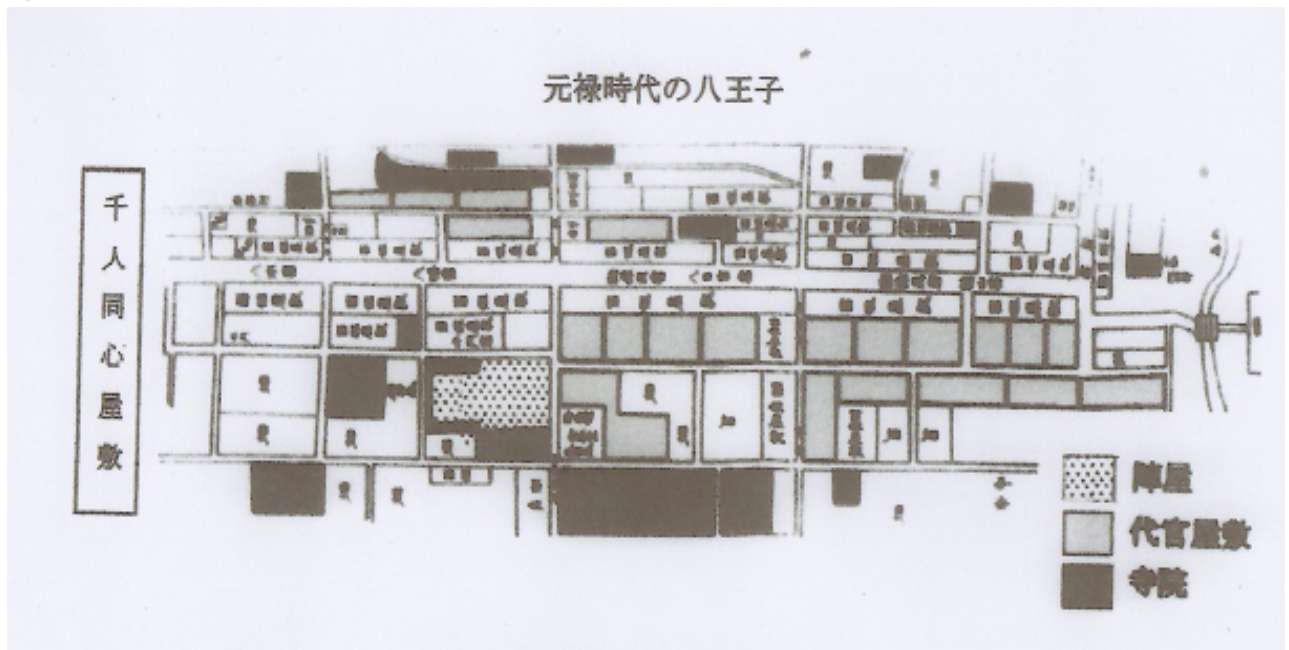
最初 横山町の市守神社の前に立って西方に見える連行峰(1028m)を狙って追分まで一里(4km)の道幅は9間(16.2m)の甲州街道を作り、両側に領民の町を作る。

領民の敷地は間口4間、奥行36間で間口で税金を掛ける。

道の真中に井戸18本、水も流した。

少し遅れて、追分にて約35度左折し、高尾山・富士山に向けてつった。

### ② 大久保長安の陣屋



◇ 新八王子の中核部として小門に設置。

◇ 規模は、敷地予測面積約62,000㎡、(東西300m余×南北200m余)。

◇ 西半分に高さ1丈(3m)の土堤、その外側に巾2間(3.6m)の堀。

◇ 西の端に産千代稻荷神社、400年前の井戸(2本あったが現在は1本)。

◇ 東に御門、北に裏門、小門宿、牢屋。



### ③ 陣屋を中心とした守り

- ◇ 陣屋の西側の守りは、千人同心屋敷を配置。  
(八王子城落城直後甲斐から武田氏の遺臣257名移住させ、その後浪人を250人募集して500人に、更に500人募集して1000人とした)
- ◇ 陣屋の東側と西北側の守りは、代官屋敷配置。
- ◇ 陣屋の北側に八王子城の城下町にあった寺院を中心に配置。
- ◇ 陣屋の南側には寺町をつくり、寺を配置。

### 6. 新八王子の重要課題

- ◇ 八王子城下から移った場所は浅川の扇状地
  - ◇ 現在の中央線以北は、川であった
  - ◇ 地盤が低く、泥砂礫で浅川の常襲撃地帯
- } 治水対策が重要課題

### 7. 治水対策に関しては、別途説明

### 8. 大久保長安の伝承地

(詳細は別紙マップ参照)

#### ①陣屋跡の産千代稻荷神社

- ◇400年慰霊祭実施。



#### ② 興林寺の開運灯籠



#### ③大久保塚の供養石



④ 大善寺のお十夜供養



⑤ 武田の娘松姫さまの信松院



9. まとめ

① 大久保石見守長安は、

- ◇甲斐国で武田信玄の政治学の基礎技術を習得。
- ◇徳川家康の家臣として八王子・桐生・青梅などのまちづくりに活躍。
- ◇石見・佐渡・伊豆など金山奉行として活躍。
- ◇一里塚奉行として道路網整備に活躍。
- ◇老中、勘定奉行としても活躍。

徳川幕府創設期において、なくてはならない人物であった。

② 江戸の始め大久保長安が行なった八王子のまちづくりが現在も生きており、大久保長安の会は八王子の成り立ちを大久保長安という切り口で解析し八王子のまちづくりに貢献していきたい。

大久保石見守の主な人脈 (徳川実紀・寛政重修諸家譜 等より)

